



カトリック町田教会  
町田市 中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

いかにずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



人は皆、火で塩味を付けられる。塩はよいものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたもたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過しなさい。

マルコ福音書 9. 49

### 同じ雨・一つの出来事

主任司祭 小池 亮太

七月に入ると、シトシトと降る雨が何日も続き、「今年梅雨らしい梅雨だな」と思ったものです。

都市で生活している人にとって、雨が降れば傘で片手がふさがれ、乗り物に乗れば濡れた傘が迷惑にならないように気を遣わなければならない。「梅雨は面倒なもの」と感じます。しかし、農家の人にとって梅雨は、暑い夏の前に必要なものですから「雨の日

が続きありがたい」と思うこととでしょう。大地に根を下ろしている植物にとっては、枝を張り、葉を茂らせる恵みの季節です。では、鉢植えの植物はどうでしょうか？

私は黙想や休暇で一週間前後、教会を離れる事があります。その間、鉢に植えて育てている植物に水遣りができませんから、「自分のいる所は晴れますように。けれど、教会には一日おきに雨がふり

ますように」と願うわけですね。しかし、そのような自分勝手な願いが叶うはずもなく、帰ってくる時、幾つかの植物は枯れています。そのようなことを何度か繰り返しているうちに、多肉植物、サボテン、塊根植物などの乾燥に強い植物を育てるようになりました。個性的な姿で独特の愛らしさ、不思議な魅力があるこれらの植物は、少しの水で生きるために進化してきたので、水を与え過ぎると根が腐り、枯れてしまいます。また、光と風を必要とするので、部屋の中では風通しの悪さから病気になるやすく、光の不足で姿も美しくなくなります。したがって、屋外で育てることになります。留守中に雨が続きと根腐れになるので、今度梅雨は「自分のいる所も、教会も雨が降りませんように。晴天が続きますように」と、また自分勝手に願うわけです。

なく、季節が巡って梅雨になれば、雨の日が続くのです。梅雨の雨が、ある植物を繁らせ、ある植物を枯らすように、一つの出来事が、ある人を傷つけ、ある人を癒すことがあります。また、梅雨を喜ぶ人もいれば、煩わしく思う人もいるように、苦々しく見る人がいる一つの出来事の反対側に、歓喜の叫びを上げる人がいます。植物を育てている私が、自分勝手な思いで雨に一喜一憂しているように、出来事を自分の置かれている立場からしか捉えられず、一方的な判断基準によって一喜一憂している人間の姿は、神の目から見るとどのような

### よろしくお願ひします

運営委員 乙戸 紀代

今年の二月に信者総会で紹介され、承認され、運営委員としての第一歩が始まりました。運営委員の声がかかったのはブロック会議の連絡員をしているときです。断わる理由もないので引き受けました。

運営委員会が始まって復活祭の報告や反省、外国籍信徒との話し合いについて、空調設備改修工事の進捗現況報告、ミサ送迎、司祭巡回、避難訓練など議案が目白押しでした。その一つ一つに対応していく運営委員に敬服しました。

映っているのだろうか……。雨が降り続く事で、植物が繁ったり、枯れたりするのを知っている人が、不安げに空を見上げるように、すべての人がいきいきと生きる事を望んでいる神は、世界で起きる出来事によって人の命や人生が脅かされないかと心配しながら、人によって紡がれていく歴史を憂えた目で見ていたのではないだろうか……。

さてカトリック信者になった私のことを話してみたいと思います。

平成十年の秋、スペイン八日間の旅行をしました。バルセロナからバレンシア、グラナダと巡りセビリアへ。セビリアの大聖堂をゆっくり見学しました。特にマリア様にさげられた大聖堂。中にいると吸いこまれていきそうな感覚でした。信者になって精霊ということばを聞き、まさしく精霊が宿っていたのだと思います。コルドバ、マドリ

ドを観光し帰路へ。

次に平成十三年の秋イタリ  
ア九日間の旅行をしました。  
閑空を発ちミラノからペロー  
ナ、ベニス、フィレンツェ、  
ピサ、シエナと観光し、アッ  
シジへ。フランチェスコ教会  
を見学しました。その時、体  
に衝撃のようなものが走り、  
驚いてしまいました。ポンペ  
イ、ローマのヴァチカンと観  
光し帰路につきました。

平成十四年の春、札幌の町  
の通りがかりに月寒教会の表  
示を見て、ためらうことなく  
入ってみました。中に入ると  
なにかホッとした感じです。

沢田茂神父様のオペラ歌手  
のような美声にも驚きました。  
それから教会の早ミサにも通  
い要理を学び、平成十五年の  
復活祭に洗礼を受けました。

典礼の花にたずさわると  
なって六年がたちます。最  
初は枝の手入れだけのお手伝  
いの軽いつもりが、お誘いを  
受け生けるようになりました。  
隔月の例会では聖書の勉強も  
しています。いまは「ミサ」。

活発な意見がやりとりされて  
います。毎年一月には新年会  
がおこなわれ、会場がどこに  
なるのか楽しみの一つです。  
信者歴もまだ浅くわからない  
ことだらけですが、周囲の  
人達の指導を仰ぎながら日々  
精進していきたいと思えます。

黙想会までのあゆみ

堀江 勇

八十歳を迎えた一昨年の秋、  
町田教会の入門講座を受講す  
る機会を得ました。小池神父  
様の初心者にもわかりやすい  
ユーモア豊かな講話、また難  
しい質問にも的確に応答され  
る姿勢にひきつけられました。

一年余が過ぎた秋、定期健  
診で胃に異常が見つかり、要  
オペの告知を受けました。ま  
さかという思いと、いよいよか  
という思いが交り合い、鬱々  
とした日を過ごしていた中、神  
父様から「キリスト者となり  
信仰の道を選ぶ意思ありや」  
と問われ、お許しを頂けるな  
らば是非とお願ひしました。

奇しくも入院二日前の洗礼  
式でした。病状はご加護と名  
医に恵まれ、ごく短期間で完  
治することができました。

この時の経験によって、人  
との出会いを大切にすること  
、洗礼式で約束した信仰の誓い  
を生徒全うすることを日々反  
芻しています。

この五月、ヨゼフ会主催の  
静修会に参加させて頂きまし  
た。五月晴れの日、汚れなき  
マリア修道会に到着。静寂な  
たたずまいと親しく迎えて下  
さるシスター方の気品に身が  
引き締まる思いで御聖堂に入  
り、すぐに黙想に入りました。

**地震がきたら!**

① 頭を保護し身を低くして揺れがおさまるのを待つ

② 揺れがおさまったら係が外の安全を確認

③ 安全と思われたら再開

④ 余震の心配がある場合には再開

⑤ 帰宅または教会待機

本人の判断

小学生以下保護者の迎えを待たせる

運行情報を調べる

電車 バス

★あつて出口に殺到しない

★戸外にどび出さない

★日頃から非常口を確認!

★非常電灯も非常灯誘導灯はついているからあてなさい

八月三十日(日)避難訓練を行います。

町田第一中学校

★高円寺教会の避難訓練マニュアルをもとに作成



作法も分からず戸惑いもありましたが、眼を閉じていると、気づかぬうちに夢の中にいる感覚になりました。自分の生い立ち、亡き父母兄弟、恩人方の面影などが走馬灯のようによぎり、また困難に遭遇し悩んだこと、後悔の念、病弱になってしまった妻への思いなどが交錯し少し苦しさを感じたところ、黙想の時が終わってしまいました。その後の神父様の講話とミサがより重々しく感じられたのは、長い黙想によつて心に変化が生じた不思議さかもしれません。

夕刻、すべてのセレモニーが終わり、シスター手作りの美味の会食、ヨゼフ会特有の親しみあふれる懇親会、早朝の祈りなど今でも鮮明によみがえる体験を与えて頂いたことに心から感謝し、これからも親しくご指導を頂きたいと思っています。

### 被災地イベントについて

町田教会被災地支援センター

事務局 立木 欣吾

今回は、今年の四月二六日に宮城県登米市で行われた東北風土マラソン&フェスティバルにボランティアとして参加した廣田和之さんに話を伺いました。

「東北風土マラソン」とは、宮城県で唯一行われるフルマラソンで、今年で二回目。「風土」は風土とFoodをあわせた言葉。走るだけでなく、東北各地の物産展やいろいろなイベントを同時に開催。ランナーもボランティアも観光も地元の人たちも、みんなで楽しめるお祭りイベントです。フルマラソンの参加費は七五〇〇円と少々高目ですが、マラソンの休憩所には飲み物だけでなく地域の笹かまぼこやメカブ、フカヒレスープまであって、ゴールテープを切れば地酒の利き酒券やお米までもらえます。復興車両が行き交う沿岸部から少し離れた春の息吹にあふれる緑いっぱい自然に囲まれたマラソンコースを走り抜けます。

廣田さんの役割はバス誘導ですが、当日は大忙し。というのも、参加者は約四〇〇名、昨年の倍増。首都圏や外国からも前回の楽しかった評

判を聞いて駆けつけた人がたくさんいました。好天に恵まれ、沿道からは、地元の人を手を振って応援をしてくれる人とのふれあいがあるマラソン大会だったそうです。

この催しの大きな目的は、被災地の復興です。遠くから訪れた人が、食べ物も風景も素晴らしかった思い出を持ち帰って、周りの人を連れて再び訪れる。そうして被災地の復興に役立てる循環を狙っています。廣田さんは、ランナーもボランティアも住民たちも、関わった人たちが笑顔になれる、こういうイベントがあってもいいのでは、と締めくくってくれました。被災地支援というと堅苦しく考える方もいらつしやるでしょうが、誰もが関わることの出来るイベントは、これからも長く続けていかなければならぬ被災地支援の鍵となるような気がしました。

登米市米川は、江戸時代享保年間（一七一六一〜一七三五）、二二〇人のキリシタンたちがその信仰ゆえに殉教した地です。毎年六月には、教会関係の方のみならず、町の人が総出で祝う「キリシタンの里まつり」が催されています。食べ物や風景のみならず、人を引き付けてやまない登米に行ってみませんか？

### 集まれ小学生！

日曜学校 坪山 明美

現在、日曜学校は、第1と第3日曜日の第2ミサ後、小聖堂にて、5〜10人の子ども達（小学生）の参加で楽しく行っています。そして、夏休みとクリスマスは土曜学校と一緒にキャンペーンとお泊り会に参加しています。



リーダーは保護者で、「子ども達に伝えたい事」を話し合いながらの運営です。外国出身の保護者の方も多く、国際色豊かな雰囲気、英語を交えてのお祈りやゲームの時間になるととても盛り上がりです。

ごミサの侍者もしています。一年生からできます。高学年のお兄さん、お姉さんが丁寧に教えてあげている姿は、とても頼もしいです。



今は、ロザリオの使い方を知り、お祈りをしながら、マリア様をもっと身近に感じられるようすすめています。10月に開催されるヤコブ祭では、ロザリオとマリア様の絵の貼り絵を協力して完成させ展示させて頂きます。ぜひ、ご覧下さい。

毎回参加できなくても、少しの時間でも大丈夫。未信者のお子様も大歓迎です！

優しい神様のお話をたくさん聞いてみませんか？ イエス様の話ができる友達を作ってみませんか？

どうぞご自由に小聖堂にお越しください。

## 終戦記念寄稿

## 満州からの引き揚げ

堤 貞夫

私は昭和十一年の生まれで、今年七十九歳、今の内に戦後七十年を振り返り、自分が経験した戦争の一端を伝える義務があるのかもしれない。

昭和二十年八月十五日、満州国奉天市はぎらぎらする太陽に照らされていた。小学四年の私は家の表の路地にいたような気がするが、母親から急に家に呼びもどされ、ガリガリいうラジオ放送で天皇陛下の勅語を聞き、日本がこの戦争に敗れたことを知った。満州は実は八月九日未明から、突如宣戦を布告したソ連軍の侵入を受け、満州開拓団として入植していた農家の人たちははじめとして、大変な被害に遭っていたのである。戦車を押し立てたソ連軍の先端は、十四日には新京にまで達し、もう一日たてば奉天に到着するところであった。私達は商社の支店長として派遣されていた父と母、兄、姉の五人家族と、脱走して我が家に逃げて来ていた兵隊の計六人である。

放送の翌日、遠雷のような音と地響きが遠くから聞こえてきて、しばらくすると、ソ連の戦車が路地を出た大通りを、

文字通り轟音を立てて次々と通過していくのが見えた。そのうち、ソ連兵が民家に侵入して略奪をしているという情報が伝わってきた。やがて、我が家の表門をこじ開け、マンドリンと呼ばれた連射銃を肩にしたソ連兵が家に侵入してきた。母、姉は急いで裏口から裏庭に脱出、ソ連兵は銃を突きつけながら、めぼしい家財を物色し持ち去った。我が家にはその後、計九回の侵入があった。

ある日、隣の家で遊んでいた私は、境の煉瓦塀から家の玄関口に飛び降りたところで、出てきたソ連兵と鉢合わせをし、驚いたソ連兵に銃で小突き回された。子供と見てこれですんだのだが、撃ち殺されても仕方がないところだった。その後奉天では、中国共産党軍、中国国民党軍が来て、一応の平安は取り戻した。しかし、各地から逃げてきた方々は亡くなられた方も多く、枯れ木のようなご遺体を学校校庭に大きな穴を掘って埋葬したということであった。

年を越え、日本への引き揚げの話が伝わってきて家族中の荷物作りが始まり、八月下旬にようやく奉天を後にすることになった。無蓋貨物車に載せられ、夜襲におびえながら錦州へ。仮設収容所で船を

待ち、葫蘆島から乗船。船中の水葬も忘れられない。博多港で上陸後、汽車に乗って京都に向かった。車窓から都会の戦火の跡をたどりながら、丸一日以上たつた夕刻、一同無事で京都に着いた。十月初旬になっていた。

この七十年、この国に戦争は無かった。孫たちに平和な国が何時までも継続することを衷心から願っている。

犠牲献金  
中高生会

4月12日	12,706円
(ペロニカ苑へ)	
5月17日	14,555円
(ペロニカ苑へ)	
6月7日	8,870円
(ペロニカ苑へ)	
7月5日	13,435円
(ペロニカ苑へ)	

## 信者動静

2015年4月～7月

(個人情報のため、削除しています)